

# STUDENT EXCHANGE NEWS



近江兄弟社中学・高等学校 国際交流委員会・留学生センターニュース

ISSUED BY THE INTERNATIONAL EXCHANGE COMMITTEE, OMI BROTHERHOOD SR. & JR. HIGH SCHOOLS

## 留学レポート

夏休みを利用して、姉妹校に留学した高校生のレポートを、2回に分けて紹介します。

### かけがえのないもの

I21 泉 真惟子  
姉妹校交換留学  
St.Patrick's College(オーストラリア)  
2017/721 ~ 9/2



この留学で私はたくさんのことを学びました。この留学に行くまでは、身の回りのことを完璧に自分でできていなかったし、自分の英語力も全然だったので、正直この留学をしっかりと終えることができるのか不安でした。しかし、この留学へ行って私の考えが変わりました。まず私が思ったのが、聞くことは全然恥ずかしいことではないということです。留学に行く前の私なら、これを聞いたらどう思われるか、何も分かってないと思われられないか、などと思ってしまい、きっとできなかったと思います。

しかし、私はこれが初めての海外ということもあり、わからないことしかなかったので、それを正直に友達やホストファミリーに伝えると、「なんでも聞いていいよ!」と言ってもらえたので、本当に小さなことでも質問しました。すると、みんなそれにとっても丁寧に答えてくれたので生活のことだけではなく、オーストラリアやタスマニアのことをたくさん学ぶことができ、しっかりと自分の思っていることを伝えられてよかったと思いました。自分が物を伝えられたことが嬉しかったし、それに答えてくれる人たちに出会えたことが

本当に自分は幸せ者だなと思いました。

自分が友達やホストファミリーと会話できていることに驚きました。最初のうちはゆっくり話してもらっているのに聞き返したり、短くしか返事ができなかったのに、徐々にいろいろな言葉を使って話せたり、付け足して話ができたりして自分の英語力がちょっとずつ伸びているのがわかって、とても嬉しかったです。向こうの人たちは私が思っていた以上に好奇心旺盛で、よく日本のことを聞いてきてくれます。また、タスマニアの人は自分の国のことを本当によく知っているな、と思いました。私が聞かれてわからなかったことを友達やホストチューデントに聞いてみると、当たり前のようにすぐに答えてくれました。それを聞いて、私はもっと自分の国を知る必要があることを実感しました。

この留学でできた友達や、二つの家族をこの留学だけのものにしたいとは思っていません。ここで話したすべてのことは自分の中でとても大切でかけがえのないものだったと思います。ですから、私はずっとそれを自分の中に留めておきたいと思います。

もっと英語を勉強してもっとすらすら話せるようになりたいと心から思いました。絶対にまたタスマニアに帰りしたいと思います。私はタスマニアの St.Patrick's College に留学ができて本当に良かったです。出会ったすべての人や、経験したすべてのことに本当に感謝しています。

### すばらしい経験

I11 山本 結友  
姉妹校交換留学  
Roong Aroon School (タイ)  
2017/7/15 ~ 8/26

タイで過ごした6週間はあっという間に過ぎました。ホストファミリーや友達と作った思い出はたくさんできました。

学校では主に二つのイベントがありました。

一つ目は International Festival です。タイ伝統衣装を着て、タイダンスを踊ったり、日本で有名なドラマ「逃げるは恥だが役に立つ」の主題歌

「恋」のダンスをタイの方と一緒に踊ったりしました。ほかにラナードという伝統楽器を弾いたり、浴衣を着たタイの方と一緒に写真を撮ったりしました。



二つ目は、バレーボールの試合です。これは部活としてするものではありません。私は小学生の時、バレーボールを習っていたので基本の動作はちゃんとしてことができました。しかし、タイの方全員、プロだと見違えるほどバレーボールがとても上手なので、活躍できるか心配だったのですが、ホストシスターが「上手にできなくてもいいから、楽しんでやろう!」と仰ってくださいだったので、とても心強かったです。驚いたことは生徒たちだけではなく、先生(体育を教えていない)も一緒にやるということです。やっぱりタイの人ってすごく仲がいいんだなと思いました。

ホームステイでは、外出や外食をすることが多く、家で時間を過ごすというはあまりなかったです。たくさんの観光地に行きました。Amphawaに行きました。Amphawaというのは水上マーケットです。そこではレストランやお土産を売る店などたくさんありました。船の上で商売している光景を初めて見ました。ほかにも観光船がありました。水上マーケットの周りを一周した後、Amphawaで有名な蛍を見ました。日本でも何度か見たことあるのですが、タイの蛍は日本以上に数が多くとても美しかったです。景色もとてもよかったです。

また、タイ王宮にも行き、約9時間半も入場するのに待ちましたが、中に入ると王宮の中がすべて金で装飾されており、目を覆いたくなるほど金輝いており、長時間待ったかいがありました。日本とは違う歴史を肌で感じる事ができ、とても勉強になりました。王宮の中には兵隊がおられ、その兵隊は銃を常に持っており、とても威圧感がありましたが、きれいに並んで歩幅もあわせ行進する姿に感動しました。

タイの街中には、去年の10月に亡くなられたプミポン国王(9代目国王)の写真が至るところに飾られており、タイ人はその写真の前で手を合わせ、頭を下げる姿をよく見かけました。タイの人々にとってプミポン国王がとても偉大で、いかに崇拝されているのかを実感しました。亡くなられてすでに10か月ほど経ちますが、いまだにタイの人々は悲しみにくれているようでした。亡くなられた当時は、全ての国民が泣き崩れたとホス

トファミリーが言っていました。

この留学は、私にとってとても素晴らしい経験をさせていただきました。コミュニケーションが苦手なので、なかなかうまく英語で会話することができませんでしたが、ジェスチャーや片言の英語で通じることがわかると、会話することが楽しくなり、英語も少し上達したようにも思いました。タイ語も少しだけ習得することができました。貴重な時間を過ごすことができました。また機会があれば是非ともタイに行きたいです。

---

---

## たくさんのことを発見

121 倉田麻理菜  
姉妹校交換留学  
Roong Aroon School (タイ)  
2017/7/15 ~ 8/26

---

---



タイではたくさんのことを発見することができました。タイの工事は日本に比べてとても遅く、ホストファミリーの家の隣が工事をしていたのですが、3週間経っても何も変わりなく、3週間前と全く同じ状態だったり、タイの方に聞いたら、家の前のマンションを3年前から建てているのにまだ全然完成していないことを言われていました。ホストファミリーの家にいる間も日本のように工事の音がうるさいとか、夜遅くまで工事作業をしているとかはなかったため、日本と流れる時間の違いを感じました。

タイの都会は道路の整備がしっかりとされていて、スカイトレインが走っていましたが、田舎の方に行くと、ガタガタの砂利道で古い家が並んでいました。他にもとても高い高層ビルがあり、ふとその向かいを見ると古びた店が並んでいたり、発展していつているということが、少し見ただけでも分かるくらいでした。急発展していつているので、少し空気が悪かったり、貧富の差が激しかったです。綺麗な服を着て、宝石を身にまとっている人がいれば、路上でお金を下さいと紙を持って座っている人もいました。

タイでは国王をととても敬っています。映画を見る前に国王の写真のスライドショーを見て、一礼してから映画をみたり、街中の至る所に国王の写真が飾られていたり国王の誕生日には礼拝をしたりと、とても国王を大事にしている国でした。

町にはたくさんのお坊さんがいました。私はお



坊さんはずっとお寺で修行をしてお坊さんを見ることはお寺でしかないと思っていました。しかし、お坊さんがスタバでパソコンを使いながらコーヒーを飲んでいたり、若者に人気のショッピングセンターでお買い物をしていたり、最先端をいっていて、びっくりしました。女性はお坊さんに触ってはいけないと、タイでは言われています。混雑しているところにお坊さんがいたら触ってしまうのではないかとすごく心配でした。私はホストシスターと触れないように頑張って頑張って避けて歩きました。

タイの学校では伝統的な絵の描き方やタイ踊り伝統的な楽器タイマッサージなどたくさんのお坊さんのことを教えて貰うことができました。それらを教えてくださいました。授業を通して昔のタイの人の考え方や知恵などを、知ることができ、またそれらをする中で、今までの自分を見つめ直し改善する方法を教えてくださいました。とても勉強になることばかりでした。

私が思い描いていたタイとは異なり、高層ビルの建設が遅いながらも進んでおり、その為に空気も悪く、まさに新興国でした。

知り合えた方々は、とてもフレンドリーでサービス精神が旺盛な人がたくさんいて、すぐに溶け込むことができました。

また機会があれば、もう一度タイに行きたいと思っています。とても充実した留学にできたと思います。たくさんのお坊さんのことを学べたのでこの経験をこれから生かして行きたいです。

## ただ今留学中

### Culture Shock in Australia

111 北川 星羅  
姉妹校留学

Citipointe Christian College (オーストラリア)

2017/7/15 ~ 2018/6/30 頃

Two months has passed since I came to Australia and finished the 3rd term. This term was my first semester, so at first it was hard to get used to life here. I was afraid to speak English, but Chinese students were not afraid at all. They often talked to me in English, but sometimes I couldn't understand the meaning of their questions, so I decided to speak in English myself. I'm living with a Chinese girl. Her name is Amber. We often talk about various things. Her English level is higher than mine, but we can still make mistakes with each other. Talking with her is good practice for me.

Actually, I was culture shocked for the first two weeks and I missed Japan, but now I'm not homesick or culture shocked anymore because my host family

is very kind. I'm glad I met this family.

My classmates were two Japanese and seven Chinese students. We were in an elementary class so we started studying from basic things. It was easy but I noticed that I was still using incorrect English at times. I answered many questions, wrote a story and did a speech. I didn't like speaking in front of people, but I was able to get over my fear.



I have a two week holiday now and I'm enjoying it. I'm watching movies everyday. I can't understand the stories so much, but I think that it is very good practice for strengthening my listening ability.

Last week I went to South Bank with my host father and host sister and we rode a small ferry. It was very fun! I could see the city from the ferry. There were many buildings and shops. My host sister taught me how to get to the city by bus. I would like to go there someday.

Term 4 starts from next week. I want to give my best to the term 4. (2017/09/27 受信)

### 感謝して一日一日を

111 長谷川大翔  
姉妹校留学

Grand Rapids Christian High School(アメリカ)

2017/7/29 ~ 2018/3/下旬

アメリカに来て2ヶ月が経ちました。長いようであつという間でした。今月はとても気温の変化が激しく少し体調を崩しかけました。月の初めはとても涼しく寒いぐらいでしたが、途中から急に温度が上がり、30度を超えてきました。月末に近づくにつれまた寒くなっていきました。気温の変化にともない木の葉の色もどんどん黄色や赤色に変わってきています。やはり日本とは木の量、大きさのスケールが違い、その分とても綺麗に見えます。この環境にも慣れて来て、少し余裕も出てきました。

今月は、多くのアメリカンフットボールの試合に連れて言ってもらいました。その内の1回はホームカミングの試合でたくさんの卒業生も足を運

んでいました。そこではたくさんのアメリカ人の生徒がいてルールを分かっていない生徒が大半です



すが、すべての生徒はがお祭りのように盛り上がっていました。しかし、国歌斉唱などの静かにしなければいけないところでは、誰もが静かにしていました。こういった切り替えができるのは僕が見習わなければいけないことだと思いました。アメリカンフットボールの試合はまたアメリカの文化を肌で感じる良い機会になったと思います。

勉強面ではすべての教科が本格的に始まっているためついていくのがとても大変です。それに2週間に1回のペースで大小のテストがあります。今月はほぼすべての教科のテストを受けました。とても大変ですが、毎週月曜日と火曜日にシニアの方々が約2時間教えてくださいます。先生方も毎日の自習時間にしっかり教えてくださいます。そのため、授業にもついていくことができていると思います。このまま怠けることなく努力を続けていきたいと思います。

ホストファミリーとの生活では、とてもよく過ごさせているので全く不安や不満もなく過ごすことができている。ホストファミリーとのルールにも慣れてきてとても順調です。色々なアメリカの遊びを教えてくださいたり、時々お店に食べに連れて行ってくださいます。このような環境は当たり前ではないということを再認識し、感謝して一日一日を過ごそうと思います。

(2017/09/30 受信)

## 第二の母国、オーストラリア

H22 米澤 玲音  
姉妹校留学

Citipointe Christian College (オーストラリア)

2017/7/15 ~ 9/30

僕は7月15日から9月30日までの約2ヶ月半、オーストラリアの”Citipointe Christian College”というところに留学しています。

留学する前から英語に興味はありましたが、しっかりと学べる機会がありませんでした。留学に行く前は様々なことに不安を抱いていました。ホストファミリーと仲良くできるか、学校で友達できるか、など考え出したらいくらでも出てきそうなくらい不安で一杯でした。しかし、いざ着いて生活してみると全然自分が思っていたこととは違っていました。ホストファミリーとはすぐ仲良くなれたし、学校でも友達はたくさんできたし、街で一人で困っていたら色んな人が声をかけ

てくれたりと本当に自分が考えていた世界がどれだけ小さかったかが分かりました。

留学前の事前学習会などでたくさんの説明を受けていたなかで、「この学校は宿題が1日3時間くらいあるよ」と言われてしっかりと宿題をこなせるかがとても不安でした。でも、そこで「英語が本当に好きなら全然苦じゃないよ」とも言われました。そして学校では本当に1日3時間分の宿題が出され、最初はしんどかったのですが、途中から全然苦ではなくなっていました。

この学校では、僕たちは”Citipointe International College”というメインの学校とは違う、留学生や移住してきた生徒が集まるところに通っていました。そこでは70人くらいの生徒がいて、そのうちの50人くらいは中国人であとは日本人がいくつかの学校から来てました。クラスは全部で4クラスあり、僕はその一番下のクラスで勉強していました。そこではお互いに不完全な英語で話し合っただけで理解し合えるとてもいい機会でした。1週間に1回、”Chapel”という小さな礼拝に参加しました。そこではメインの学校の生徒と一緒にキリスト教に関する話を聞いて理解を深める場でした。学校ではメインの生徒との交流の場も沢山ありました。

授業は大きく3つあり、ひたすら英語の授業と英語で数学を学ぶ授業、そしてスポーツ(体育)の授業がありました。数学は1週間に2回、スポーツは1週間に1回あり、チームによって選べるスポーツが沢山ありました。そして、何より、スポーツはメインの生徒と一緒に楽しめたので運動と同時にしっかりと英語も学べました。最後の週に、僕は学校の学園長のような人に連れられ、音楽のレッスンに特別に参加させてもらいました。そこには本当に音楽が好きな生徒が大勢いて、とても気が合い、楽しかったです。

今、学校は終わって2週間のホリデーの最中です。しかし、もうこの土曜日には帰国しなければなりません。ホリデーの間は学校のように英語は学べないので、ホストファミリーや出かけた先で出会った人たちと積極的に話してスピーキングとリスニングの力を付けよう最後の努力をしています。ホストファミリーがその友人と話していたら、自分が関係なくても話に耳を傾けて理解する努力をしています。テレビを見たり英語の曲を聞いたり悔いのないように最後の1週間を過ごしたいです。

今回のこの留学は本当に自分の英語力も向上し、コミュニケーション能力も向上したように感じます。自分のためにわざわざ高い費用をかけてこの留学に参加させてくれた親、そして学校のプランに本当に感謝しています。今はオーストラリアは第2の母国のような存在です。

(2017/09/27 受信)